

Oracle8 Server for HP-UX 11.0 32-bit

リリース・ノート

リリース 8.0.6

2000 年 6 月

部品番号: J00601-02

原典情報: A73327-01 Oracle8 Release Note for HP 9000 Servers and Workstations Release 8.0.6

ORACLE®

Copyright © 2000, Oracle Corporation
All Right Reserved

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle、Net8、Pro*COBOL、Pro*FORTRAN、SQL*Module、SQL*Plus、Advanced Networking Option、Advanced Replication Option、Developer/2000、Enabling the Information Age、InterOffice、Oracle Applications、Oracle Call Interface、Oracle Enterprise Manager、Oracle Installer、Oracle InterOffice、Oracle Names、Oracle Parallel Server、Oracle Server Manager、Oracle WebServer、Oracle7 Server、Oracle8 Server、PL/SQL、Pro*C/C++は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

目次

改訂情報	4
使用上の注意	5
リリース 8.0.6.0.0 製品セット	6
アップグレードおよびダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則	8
サポートする OS バージョン	9
Installer について前バージョンとの変更点	10
Default Install と Custom Install について	10
製品選択の階層について	10
Oracle インストール前の設定作業	11
インストレーションについての注意事項	12
README.FIRST ファイル	12
Oracle Intelligent Agent のインストールについて	12
De-Install について	12
Pro*COBOL について	12
製品の制限事項および既知の障害	14
Precompiler について	14
Migration Utility	14
HP-UX 11.0 リリースでの CDE スレッドの使用	15
Legato Storage Manager について	15
HP-UX 11.0 ではサポートされていない製品	15
ワードサイズの異なるシステムでのサーバーおよびクライアントの実行	15
Oracle Parallel Server の制限事項	16
Net8 OpenAPI のサポートについて	16
英語オンラインドキュメントの扱いについて	16
エクスポートのメッセージについて	16
デモストレーションについて	17
共有ライブラリについて	17
Pro*COBOL について	17

Pro*C について	17
OCI について	18

改訂情報

2000 年 6 月 14 日改訂

「リリース 8.0.6.0.0 製品セット」項目に、Oracle8 Parallel Server Option を追加しました。

使用上の注意

本リリースノートは Oracle8 for HP-UX リリース 8.0.6.0.0 製品セットを特に日本語環境で使用するにあたっての注意事項について解説しています。

『Oracle8 for HP 9000 Servers and Workstations (HP-UX 11.0) インストレーション・ガイド リリース 8.0.6』と合わせてご利用ください。

また、製品メディア中の `rdbsms/doc/README.doc` ファイルを必ずお読みください。

次の事項に関し説明します。

- リリース 8.0.6.0.0 製品セット
- アップグレード及びダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則
- サポートする OS バージョン
- Installer について前バージョンとの変更点
- Oracle インストール前の設定作業
- インストレーションについての注意事項
- 製品の制限事項および既知の障害

リリース 8.0.6.0.0 製品セット

製品	
Oracle Unix Installer	4.0.3.0.0
Oracle On-Line Text Viewer	1.0.1.0.0
SQL*Plus	8.0.6.0.0
Oracle for HP9000 Servers and Workstations Documentation 8.0.6.0	
Net8	8.0.6.0.0
Net8 Protocol Adapters	8.0.6.0.0
TCP/IP Protocol Adapter	8.0.6.0.0
LU62 Protocol Adapter	8.0.6.0. *1)
Oracle Advanced Networking Option	8.0.6.0.0 *5)
Security and Single Sign-On	8.0.6.0.0 *5)
Client Software	8.0.6.0.0
Net8 External Naming Adapters	8.0.6.0.0
Migration Utility: Oracle7 to Oracle8	8.0.6.0.0
PL/SQL	8.0.6.0.0
Oracle8 Enterprise(RDBMS)	8.0.6.0.0
Oracle Intelligent Agent	8.0.6.0.0
Oracle Data Gatherer	8.0.6.0.0
Oracle Parallel Server Management Components	8.0.6.0.0
Oracle8 JDBC Drivers	8.0.6.0.0
JDBC Thin Driver	8.0.6.0.0
JDBC OCI Driver	8.0.6.0.0
Object Type Translator	8.0.6.0.0
Oracle Cartridges	8.0.6.0.0
Oracle ConText Cartridge	2.4.6.0.0
Oracle8 Visual Information Retrieval(VIR) Cartridge	8.0.6.0.0 *1)
Oracle8 Spatial Cartridge	8.0.6.0.0
Oracle8 Image Cartridge	8.0.6.0.0

Oracle8 Time Series Cartridge	8.0.6.0.0 *1)
Oracle Options	8.0.6.0.0
Oracle8 Parallel Server Option	8.0.6.0.0
Oracle8 Objects Option	8.0.6.0.0
Oracle8 Partitioning Option	8.0.6.0.0
Precompilers	8.0.6.0.0
Pro*C/C++	8.0.6.0.0
Pro*FORTRAN	1.8.28.0.0
Pro*COBOL	1.8.28.0.0
Pro*COBOL	8.0.6.0.0
Oracle Name	8.0.6.0.0 *3)
ORACLE NLS Libraries and Utilities	8.0.6.0.0 *4)
ORACLE Core Libraries	8.0.6.0.0 *4)
Oracle Server Manager	3.0.6.0.0 *2)
Legato Storage Manager	5.5.0.0.0 *2)*6)
Oracle Trace	4.0.0 *4)

備考：コンポーネントは、製品メディアに含まれる製品コンポーネントの一覧を記載したもので、製品ライセンスとは対応していません。

*1) 日本ではサポートされません。

*2) Oracle8 Enterprise (RDBMS) と同時にインストールされます。

*3) Net8 と同時にインストールされます。

*4) インストール時に選択できるものではありません。

*5) 対応する Network ソフトが導入されている必要があります。

*6) この製品は、Oracle Parallel Server を使用した環境ではサポートされていません。

アップグレードおよびダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則

Oracle8 リリース 8.0.6 では、アップグレードおよびダウングレード・スクリプトのネーミング規則が新しくなっています。

スクリプト名には、CAT*.SQL 形式を使用しません。新しいネーミング規則のスクリプトを使用すると、あるリリースから別のリリースへ直接移行することができます。

アップグレード用のスクリプトには U*.SQL 形式、ダウングレード用のスクリプトには D*.SQL 形式の名前が付いています。

次の 2 つの表に、アップグレードおよびダウングレード用の新しいスクリプト名を示します。

8.0.6 へアップグレードする対象	実行するスクリプト
8.0.3	U0800030.SQL
8.0.4	U0800040.SQL
8.0.5	U0800050.SQL

8.0.6 からアップグレードする対象	実行するスクリプト
8.0.3	D0800030.SQL
8.0.4	D0800040.SQL
8.0.5	D0800050.SQL

サポートする OS バージョン

対応 OS は、HP-UX 11.0 32-bit および 64-bit です。

オペレーション・システムとパッチ・レベルの要件については、『Oracle8 Server for HP 9000 Servers and Workstations (HP-UX 11.0) インストール・ガイド リリース 8.0.6』の第 1 章を参照してください。

Installer について前バージョンとの変更点

Oracle8 リリース 8.0 の Installer は、以前のバージョンのものと比較してユーザー・インタフェースが変更されています。以下に Oracle8 リリース 8.0 の Installer で変更された箇所を説明します。

Default Install と Custom Install について

日本語のメッセージをインストールしたり、US7ASCII 以外のデータベース・キャラクタ・セットを使用するためには、「Install Type」画面にて“Custom Install”を選択してください。

製品選択の階層について

インストールする製品の選択が階層表示になりました。（製品名の左にあるプラス記号 (+) によって示されています。）

例えば Pro*シリーズプリコンパイラの各製品をインストールするには、まず「Precompiler」をダブルクリック（キャラクタ・モードでは、「リターン」）し、その後「Pro*C」など個々の製品を選択してください。

「Precompiler」だけを選択しても、Pro*C など各製品はインストールされません。

Oracle インストール前の設定作業

1. 現在の Oracle Installer は日本語環境では使用できません。日本語環境にインストールする場合、あらかじめ環境変数 NLS_LANG を設定解除してください。

【実行例（C シェルの場合）】

```
% echo $NLS_LANG
Japanese_Japan.JA16EUC
% unsetenv NLS_LANG
```

【実行例（B シェルおよびKシェルの場合）】

```
$ echo "$NLS_LANG"
Japanese_Japan.JA16EUC
$ NLS_LANG =American_America.US7ASCII; export NLS_LANG
```

2. 環境変数 LANG を設定していると再リンク時にエラーになることがありますので、あらかじめ環境変数 LANG を設定解除してください。

【実行例（C シェルの場合）】

```
% echo $LANG
japanese
% unsetenv LANG
```

【実行例（B シェルおよびKシェルの場合）】

```
$ echo "$LANG"
japanese
$ LANG=C; export LANG
```

インストールについての注意事項

Oracle をインストールする上で、既知の障害および注意事項について以下に説明します。

README.FIRST ファイル

このファイルには、リリース 8.0.6 の最新情報および制限事項が記述されています。Oracle Installer を起動すると、このファイルが表示されます。注意してお読みください。

Oracle Intelligent Agent のインストールについて

Oracle Intelligent Agent のインストール時には、「Relink All Executables」オプションを選択してください。

De-Install について

全ての製品を De-Install した場合、最後に以下のようなエラーが出力される事があります。

```
Error
Installation of shared oracle library to be used for Pro*C, OCI and XA
clients has failed.
Please run
make -f ins_rdbms.mk client_sharedlib
in
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/rdbms/lib
after exiting installer session.
```

“OK”を押下すると、「Software Asset Manager」画面に戻りますので、“Exit”して De-Install を終了し、UNIX コマンド“rm -r”を使って Oracle をインストールしたディレクトリを削除してください。

Pro*COBOL について

COBOL/UX がインストールされている環境で、Pro*COBOL をインストールをすると、以下のようなエラーメッセージが出力されます。

```
O/S Error
Error during action 'Relinking Pro*COBOL executable'.
Command: make -f
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/precomp/lib/ins_precomp.mk
```

```

ORACLE_HOME=/ora806/app/oracle/product/8.0.6 EXENAME=rtsora relink
Linking rtsora
cob -o rtsora -xe ""
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/precomp/lib/cobsqintf.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/scorept.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/sscoreed.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/rdbms/lib/kpudfo.o -L
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/ -lclntsh -lsql
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/ -lclntsh -lsql
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/nautab.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naet.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naet.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naedhs.o `cat
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naldflgs` -lnetv2 -lnttcp -
lnetwork -lnchr -lnetv2 -lnttcp -lnetwork -lclient -lvsn -lcommon -
lgeneric -lmm -lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3 -lnetv2
- lnttcp -lnetwork -lnchr -lnetv2 -lnttcp -lnetwork -lclient -lvsn -
lcommonx -lgeneric -lplsfb -lplsfb -llextp -lepc -lnlsrtl3 -lcore4 -
lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3 -lclient -lvsn -lcommon -lgeneric -lnlsrtl3
-lcore4 - lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3 `cat
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/sysliblist` -lc -laio -lm
sh: cob: not found
***Error code 1
make: Fatal error: Command failed for target `rtsora'

```

これは、MicroFocus COBOL 用の実行モジュール“rtsora”を作成しようとしてエラーが発生しています。

MicroFocus COBOL を使用していない（COBOL/UX を使用している）場合は、“Igrone（無視）”を選択し、Oracle インストールを進めてください。

製品の制限事項および既知の障害

既知の障害および制限事項については、各製品ごとの doc ディレクトリ下のオンライン README ファイルを必ずお読みください。

オンライン README ファイルに記載以外の日本語環境での既知の障害および制限事項について以下に記述します。

Precompiler について

製品の demo プログラムおよびファイルは参考用です。そのままでは動作しないものがあります。

製品のソフトウェア要件の詳細については、『Oracle8 Server for HP 9000 Servers and Workstations (HP-UX 11.0) インストレーション・ガイド リリース 8.0.6』を参照してください。

なお、サポート対象となるコンパイラのバージョンに関しては、コンパイラの提供ベンダーが上位互換を保証している場合は、下位バージョンのコンパイラに対して Precompiler がサポートしている範囲において、上位バージョンのコンパイラについてもサポート対象とします。

コンパイラの互換性については、コンパイラの提供ベンダーもしくはご購入元にお問い合わせください。

Migration Utility

- Migration Utility にて移行できる Oracle7 Server のリリースは 7.1.6、7.2.3、7.3.3、7.3.4 です。
但し、レプリケーション環境を使用しているデータベース（読み出し専用スナップショットを除く）を移行する場合、必ず Oracle7 リリース 7.3.3 以上（リリース 7.3.4 を推奨）に移行してから、Oracle8 への移行を行ってください。
- データベース・キャラクタ・セットと NLS_LANG 環境変数のキャラクタ・セットが一致していないとデータベースを正常に移行できません。必ず同一のキャラクタ・セットを設定していることを確認してから Migration Utility を起動してください。
- Migration Utility を起動するには、Oracle Installer からとコマンドラインからの 2 通りの方法がありますが、US7ASCII 以外のキャラクタ・セットのデータベースに対しては、Oracle Installer から起動すると正常動作しません。Migration Utility はコマンドラインから起動してください。

HP-UX 11.0 リリースでの CDE スレッドの使用

HP-UX 11.0 用の Oracle8.0.6 では、カーネル・スレッドを使用します。CDE スレッドを使用するカスタマ・アプリケーションは、HP-UX 11.0 システム用の Oracle 8.0.6 をサポートしていません。

Legato Storage Manager について

レガートシステムズ社の Networker Server Software および Networker Client Software がインストールされている上に、Legato Storage Manager をインストールすることはできません。これらは、共存する事はできません。

HP-UX 11.0 ではサポートされていない製品

次の製品は、HP-UX 11.0 ではサポートされていません。

- SPX/IPX Protocol

ワードサイズの異なるシステムでのサーバーおよびクライアントの実行

Oracle は、64 ビットのクライアントおよびサーバーをサポートしています。このサポートによって、32 ビットでの 2GB アドレス制限はなくなりました。このため、SGA（システム・グローバル領域）および PGA（プログラム・グローバル領域）は、コンピュータ・システムの物理メモリーのみによって制限されます。

64 ビット・アドレスによって大容量のバッファ・キャッシュが構成できるようになったため、I/O 回数を減らして、パフォーマンスを改善できます。64 ビット・アドレスによって共有プールのサイズの上限がなくなるため、より多くのユーザーが Oracle にログインできます。

次に、正常に実行およびリンクのできる組合せを示します。

- 32 ビット・アプリケーションと 32 ビット Oracle Server
- 32 ビット・アプリケーションと 64 ビット Oracle Server
- 64 ビット・アプリケーションと 32 ビット Oracle Server
- 64 ビット・アプリケーションと 64 ビット Oracle Server

ワードサイズの異なる製品をインストールするには、次の手順に従います。

1. インストールする 32 ビット製品用の ORACLE_HOME を作成します。
2. インストールする 64 ビット製品用の ORACLE_HOME を、別に作成します。

3. 32 ビット用の ORACLE_HOME に、32 ビット製品をインストールします。
4. 別の Installer セッションを起動して、64 ビット用の ORACLE_HOME に 64 ビット製品をインストールします。
5. クライアントの 32 ビットまたは 64 ビット共有ライブラリを適切にポイントするように、環境変数 SHLIB_PATH を設定します。たとえば、32 ビット・アプリケーションを実行する場合は、32 ビット共有ライブラリをポイントするように環境変数 SHLIB_PATH を設定します。
6. 32 ビットまたは 64 ビットのターゲット・データベースをポイントするように、環境変数 TWO_TASK を設定します。たとえば、この環境変数が 64 ビット Oracle Server 8.0.6 をポイントするようにします。

Oracle Parallel Server の制限事項

Parallel Server モードでリンクされたクラスタ上のすべての Oracle データベースは、Group Membership Service 実行ファイルのワードサイズに一致している必要があるため、データベースはすべて 32 または 64 ビット実行ファイルを実行しなければなりません。

異なるデータベースにまたがっている場合も含み、データベース全体で Parallel Server 実行ファイルのワードサイズが異なると動作しません。この制限は、Parallel Server モードでリンクされていない Oracle 実行ファイルには適用されません。

Net8 OpenAPI のサポートについて

Net8 OpenAPI はサポート対象外です。

英語オンラインドキュメントの扱いについて

CD 媒体上の英語のドキュメントと同一のドキュメントが日本語で提供されている場合は、日本語版を参照してください。

エクスポートのメッセージについて

以下のような日本語メッセージの表示に不具合があります。

「“xxx”」には、文字列が挿入されます。

エラー番号	誤	正
EXP-00214	表領域“xxx”をエクスポートしています	表“xxx”をエクスポートしています

デモストレーションについて

すべての製品デモストレーションには、ANSI C コンパイラが必要になります。

共有ライブラリについて

Pro*COBOL について

Oracle 社から提供されている以下の Make ファイルを使用して、共有ライブラリをリンクするためには、以下のように 27 行目を修正してください。

- \$ORACLE_HOME/precomp/demo/procob/demo_procob18.mk
- \$ORACLE_HOME/precomp/demo/procob2/demo_procob.mk

[誤]

```
build: $(COBS)

        $(COB) $(COBFLAGS) -o $(EXE) $(COBS) -L$(LIBHOME)
        $(COBSQLINTF) $(PRODLIBS)
```

[正]

```
build: $(COBS)

        $(COB) $(COBFLAGS) -o $(EXE) $(COBS) -L$(LIBHOME)
        $(COBSQLINTF) $(LIBCLNTSH)
```

Pro*C について

Oracle 社から提供されている以下の Make ファイルを使用して、共有ライブラリをリンクするためには、以下のように 31 行目を修正してください。

- \$ORACLE_HOME/precomp/demo/proc/demo_proc.mk

[誤]

```
build: $(OBSJ)

        $(CC) -o $(EXE) $(OBSJ) -L$(LIBHOME) $(PRODLIBS)
```

[正]

```
build: $(OBSJ)

        $(CC) -Wl, +n -o $(EXE) $(OBSJ) -L$(LIBHOME) $(PRODLIBS)
```

OCI について

Oracle 社から提供されている以下の **Make** ファイルを使用して、共有ライブラリをリンクするためには、以下のように 148 行目を修正してください。

- \$ORACLE_HOME/rdbms/demo/demo_rdbms.mk

[誤]

```
build: $(LIBCLNTSH) $(OBJS)

        $(ECHODO) $(CC) $(LDFLAGS) -o $(EXE) $(OBJS)
        $(OCISHAREDLIBS)
```

[正]

```
build: $(LIBCLNTSH) $(OBJS)

        $(ECHODO) $(CC) $(LDFLAGS) -Wl,+n -o $(EXE) $(OBJS)
        $(OCISHAREDLIBS)
```